

雲出川は、奈良県境の高見山地にある三峰山（標高1235.2m）に源を発し、津市域の南半分を流域にもつ全長50kmを超える一級河川です。源流の

一滴に始まり、渓谷から平野へと流域を潤し伊勢湾に注ぐ雲出川が育んだ自然や歴史をたどってみましょう。



穏やかな流れは河口の三角州へ

中流域からは川幅も広くなり、ゆったりとした流れが続きます。いくつかの井堰が設けられた本流が下流域に差し加ろうとする場所で長野川が合流します。

美里地域に源を発する長野川は、津市の水道取水口が設けられ、私たちの生活に欠くことのできない水道水の源流でもあります。この川では、貴重な天然記念物「ネコギギ」の生息も確認されていて、その流れの清らかさがうかがえます。

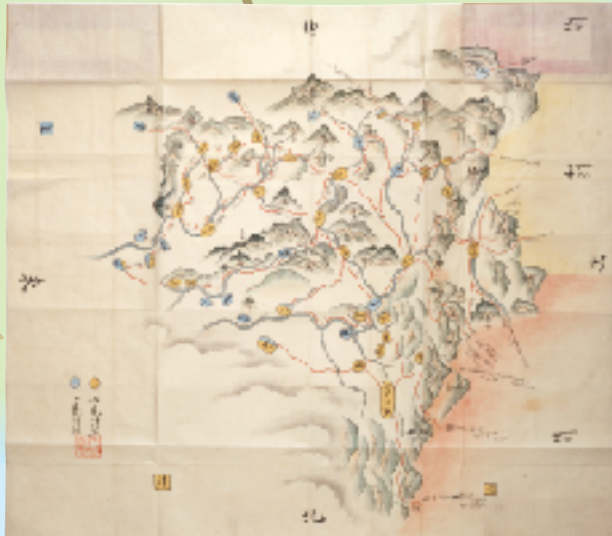
さらに下流に向かい、右岸から波瀬川が合流する辺りはアユの産卵に適した環境を形成し、その下流の流れの緩やかな場所は、カモ類の集団休息地として知られます。

松阪市嬉野地域からの支流中村川が合流する辺りの下流域ではさらに川幅が広がり、広い河川敷には緑地公園などが設けられて多くの人々の憩いの場となっています。

50kmを超える川の流れは、河口に大きな三角州（香良洲地域）を形成しました。全国的に見ても珍しい典型的な三角州である雲出川河口付近は、干潟が生じる環境にあり、多くの渡り鳥が羽を休める絶好の越冬地となっています。

源流から河口に至るまで、豊かな自然と歴史に育まれた雲出川。その流れは、私たちの生活に大きく関わり、たくさんの動植物の命の営みを支え、多くの作物を生み出す豊かな大地を形成してきました。

源流から河口へとその水の流れに沿って流域をたどると、さまざまな地域の風景が浮かび上がってきます。また、同時に、川の流れにまつわる歴史を通じ、地域の発展につながる源となった川の姿も垣間見えるようです。



江戸時代の雲出川上流地域(現在の一志・白山・美杉地域)を描いた奥一志領村之図(樋田清砂氏所蔵)
※この図は南が上になっています。